

# 農林水産常任委員会県内現地調査

## (最上・庄内地区)



県立農業大学校での取組み状況と意見交換会

また、平成25年3月に閉校した旧及中学校のグラウンドを購入し床面積1,000m<sup>2</sup>の新

山形県議会では、最先端の技術を取り入れて製造や加工を実施している企業や団体、新商品の開発や独自の戦略で販路の拡大などに取り組んでいる研究機関や生産者を調査させていただき、意見交換をさせていただきます。現地調査は、各常任委員会で実施されており、村山・置賜地区と最上・庄内地区とに分けて年間2回行っています。

今年度は、農林水産常任委員会副委員長を仰せつかりておられ、所管する農林水産分野で頑張っていただいている、最上・庄内地区の企業や農業大学校での研修状況などの現地調査を実施してまいりました。



グラウンドに建設された製材所 右奥が旧校舎

◎株式会社庄司製作所  
視察先

金山杉・最上杉を主体とした国内材を扱っている県内最大手

であり、全国でも有数の機械設備を保有しています。高樹木材

業界での資源立地を活かし、多能工によるジャスト・イン・タ

イムの納品が可能で、ホームセンターへの出荷体制を強化しています。

工場を建設。体育館にはバイオマスボイラーを建設中で、木材の乾燥室として使用し、木くずを再利用して燃料とするほか、その余熱を利用して、校舎ではバナナなどの作物を育てる計画をしているとのことです。

### ふきのとう新品種「春音(はるおと)」の育成



コンピューターにより瞬時に木材の断面を測定し、無駄の出ないよう切断



体育館に建設中のバイオマスボイラ

◎最上総合支所農業普及技術  
普及課 地域研究室

主な業務…地域の特長を活かして、生産地形成を迅速に進めるため

農業技術普及課に産地研究室を設置し、農業・総合研究センターとも連携して、園芸作物の

また、平成25年3月に閉校した旧及中学校のグラウンドを購入し床面積1,000m<sup>2</sup>の新

が優れている新品種「最上A2号」の育成にも取り組んでいます。さらに、オリジナルアーチバインフを活用したアスピラガスの全期立莖による露地長期取り栽培技術を開発しています。

产地形成に向けた現場密着型の研究開発を実施しています。

### 「春音(はるおと)」の育成



ふきのとう新品種「春音(はるおと)」

「春音」は、最上産地研究室で育成し、平成24年2月に品種登録されたふきのとうの新品種で、平成25年1月から本格的な出荷を開始しました。県では、平成23年度から25年度にかけて5回の県全体の研修会を開催。研修の成果が実を結び、出荷市場においても品質の高さで好評を得ています。

その他、最上地方のタラノメは全国的な産地となつており市場の評価が高いことから、從来の「藏王系」より収穫量・品質が優れている新品種「最上A2号」の育成にも取り組んでいます。

水田農業をどう展開していくかが重要な力です。これから次世代が希望と意欲を持って米づくりに取り組めるよう頑張って参ります。

農家農業所得の向上を図る上で、重要な力です。これから次世代が希望と意欲を持って米づくりに取り組めるよう頑張って参ります。

※この報告書は自転車運転のため再生紙を使用しております。

〒991-0053  
寒河江市元町3丁目3-3  
大和ビル2F  
〒991-0053  
寒河江市元町3丁目3-3  
大和ビル2F  
模津博士事務所

編集後記

9月12日・JA全農山形は出荷契約を結ぶ農家に対し農協が前払金として支払う26年産米の概算額を決定しました。この金額は主に前年産を1,200円~2,900円と大きく下回りました。このような水準では、農家の生産意欲が急激に低下することが懸念されます。

政府は昨年、米政策等の見直しを行い、主食米の生産調整を4年後平成30年に廃止する方針を打ち出しました。生産調整の廃止については、生産者やJAからは、自らの経営判断や販売戦略に基づいて需 要に応じた米生産ができるのかどうか不安の声が聞かれます。

本県の米の生産出願は、平成24年では972億円となっており、全国第5位の屈指の米生産県であり、本県の農業出願は352億円のうち約4割と大きなシェアを占め、米の価格や生産量の動向により大きく影響される構造となっています。

水田農業をどう展開していくかが重要な力です。これから次世代が希望と意欲を持って米づくりに取り組めるよう頑張って参ります。